



平成29年2月3日

各位

会社名 株式会社 セキド  
代表者名 代表取締役社長 関戸 正実  
(コード番号 9878 東証第二部)  
問合せ先 取締役執行役員管理部長 弓削 英昭  
(TEL. 03-6273-2053)

## 特別損失の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成28年5月6日に公表いたしました平成29年3月期通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失の計上について

平成29年3月期第3四半期(平成28年9月21日～平成28年12月20日)において、店舗の収益性の低下が見られたため、固定資産の減損の測定を行うに当たり、将来の事業計画をより保守的に評価した結果、店舗及び共用資産等の固定資産512百万円を減損損失としております。

#### 2. 業績予想の修正について

平成29年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成28年3月21日～平成29年3月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,740	100	40	10	0.71
今回発表予想(B)	8,600	△840	△890	△1,400	△98.78
増減額(B-A)	△1,140	△940	△930	△1,410	
増減率(%)	△11.7	—	—	—	
(ご参考)前期実績 ※ (平成28年3月期)	10,599	△290	△374	△460	△32.52

※ 前期(平成28年3月期)は、決算期変更により13ヶ月の変則決算を行っております。

#### 修正の理由

当事業年度におけるわが国の経済は、堅調に推移している雇用環境を背景に、個人消費は持ち直しつつあり、景気回復局面にありましたが、当業界におきましては、為替が円安に推移したことや、インバウンド需要の減速も響き、全体としては力強さに欠ける状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社は、上半期において業績予想を下回った562百万円の売上高と161百万円の営業損益について、品揃えの見直しにより在庫回転を向上させることで、売上高と売上総利益を取り戻す施策に取り組んでまいりました。第3四半期においては、主要ブランドの選定と価格帯別在庫構成の見直しが完了し、これらから外れた商品の消化に着手しました。これにより、当社の業績において最も大きなウェイトを占める年末・年始商戦において、大幅な改善効果を見込んでおりましたが、第3四半期会計期間での売上高の改善は図れなかったこと、年末・年始商戦においては改善効果が見られたものの第3四半期までの遅れを取り戻すには至らなかったことを踏まえ、来期に向けた改善を確実なものとするため、第4四半期残りの期間を消化対象商品の一扫に取り組んでまいります。

これらにより通期業績予想の売上高は1,140百万円程度下回る見込みとなりました。利益面では、チラシ販促の削減などによる大幅なコストカットに取り組み、利益確保に努めましたが、上記の取組による売上総利益率の減少により、営業利益、経常利益は900百万円程度、また、上記減損損失の計上などにより当期純利益は1,400百万円程度計画を下回る見込みであります。

※上記の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって本資料の予想数値と異なる可能性があります。

以上